

下水道の役割

- ◎汚水処理による公衆衛生の向上
- ◎川や海など公共用水域の水質保全
- ◎雨水排除による浸水防除
- ◎エネルギー資源を創る

鎌倉市下水道事業の課題

施設の
老朽化

地震・津波
対策

浸水対策

使用料の
適正化

未利用資源の利
活用（中水・汚
泥の活用等）

社会資本整備総合交付金

計画名：古都鎌倉の水環境を守る下水道整備計画

- ・ 計画期間： 平成28年度（2016年度）～令和2年度（2020年度）の5年間
- ・ 要素事業名：
 - A07-004 持続型下水道幹線再整備事業（管渠）
 - A07-005 持続型下水道幹線再整備事業（ポンプ場）

都市整備部 下水道経営課

2 持続型下水道幹線再整備事業

持続型下水道幹線の整備

持続可能な下水道の構築を目指して

主な課題

鎌倉処理区

地震・津波対策

高潮対策

老朽化対策

伏越管構造の解消

解決方法

既設

津波浸水想定区域内に浅層埋設された**下水道幹線管渠**及び**中継ポンプ場**

再整備

耐震性の高い自然流下管を津波や高潮の影響を受けない**地中深くに設置**

効果

地震・津波等に対する耐震性能の向上

中継ポンプ場6箇所を廃止

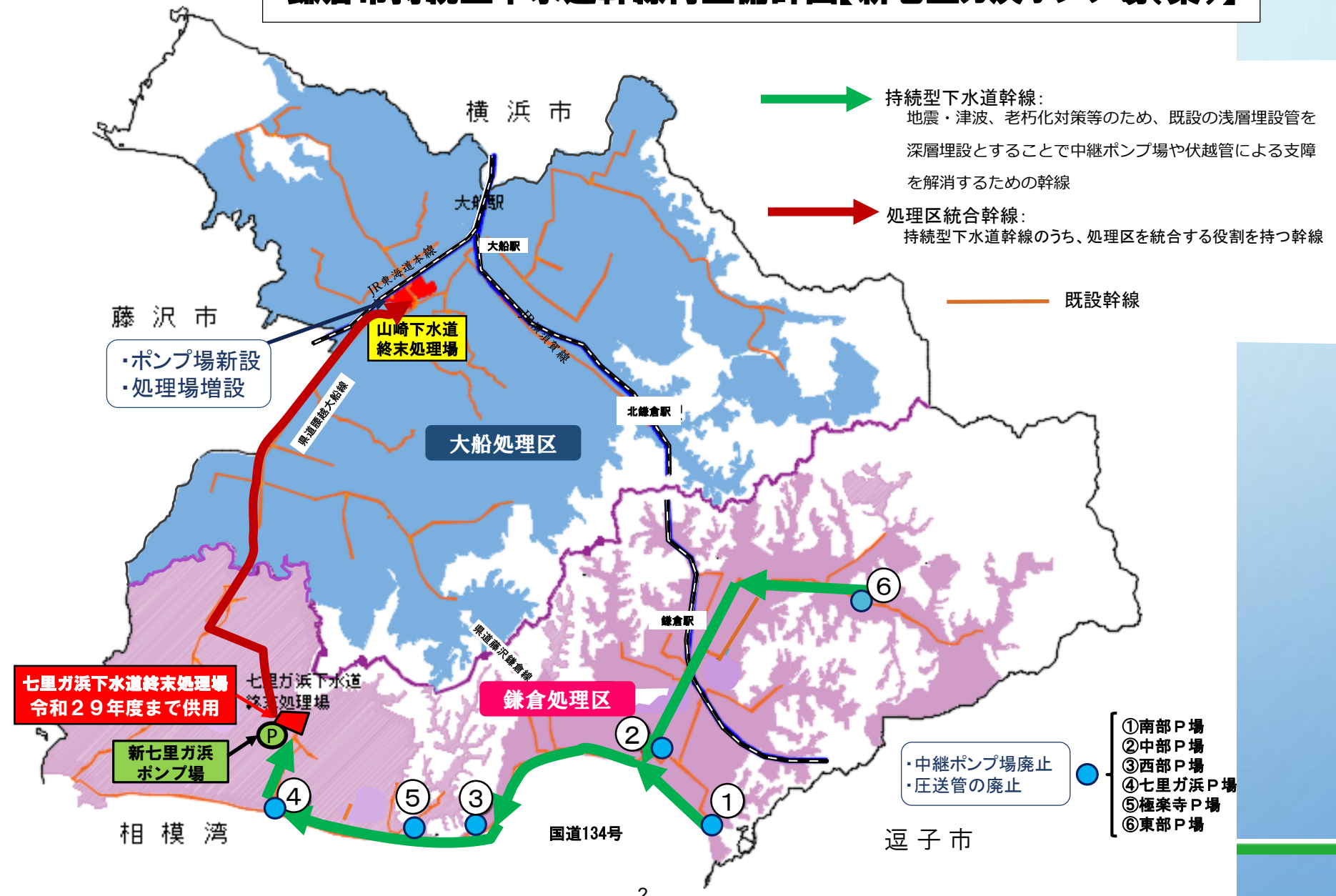
幹線等の再整備により老朽化を解消

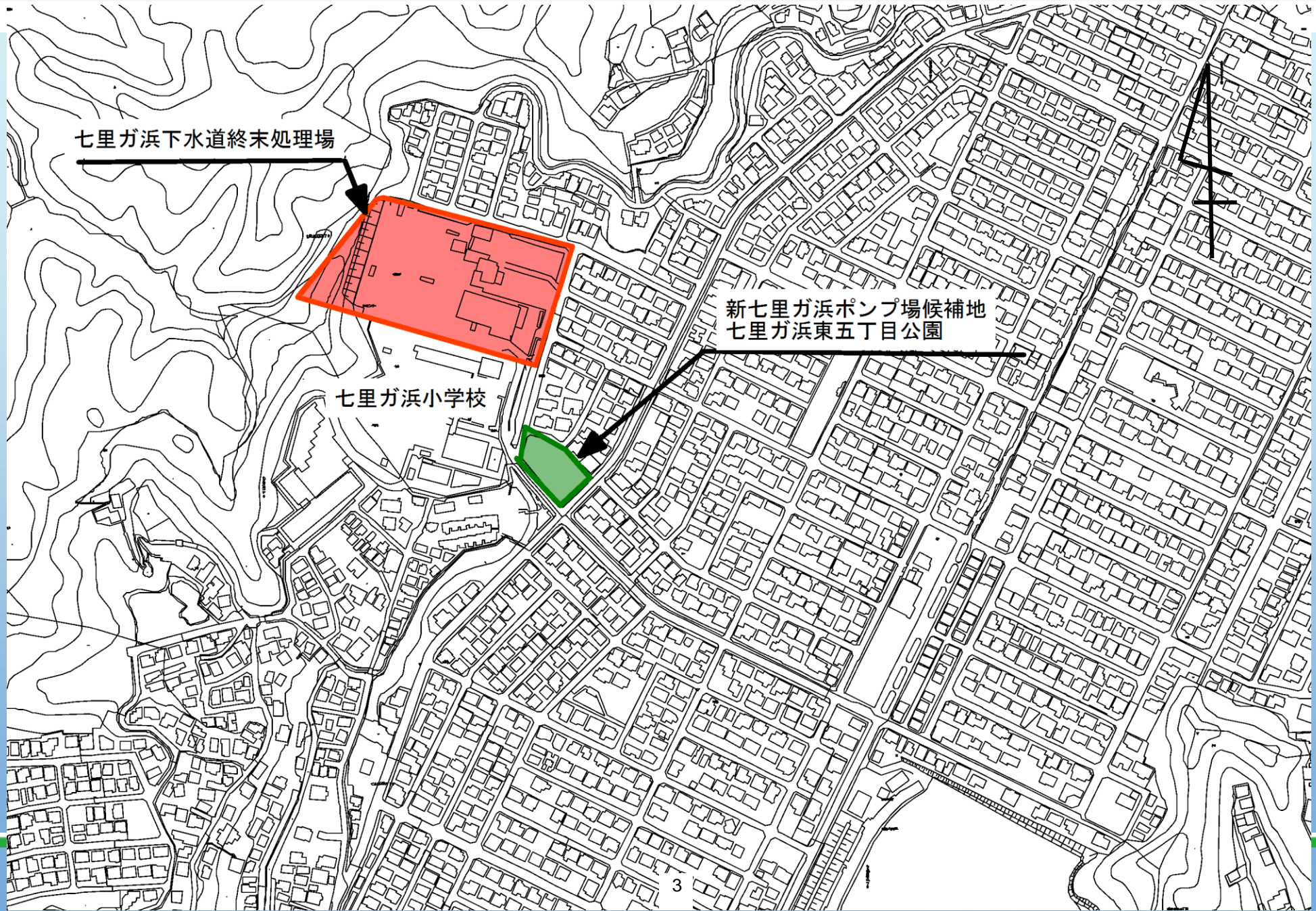
幹線等を地中深くに再整備することで伏越管構造を解消

60箇所を廃止

中長期的な維持管理経費や補修更新経費の削減

鎌倉市持続型下水道幹線再整備計画【新七里ガ浜ポンプ場(案)】





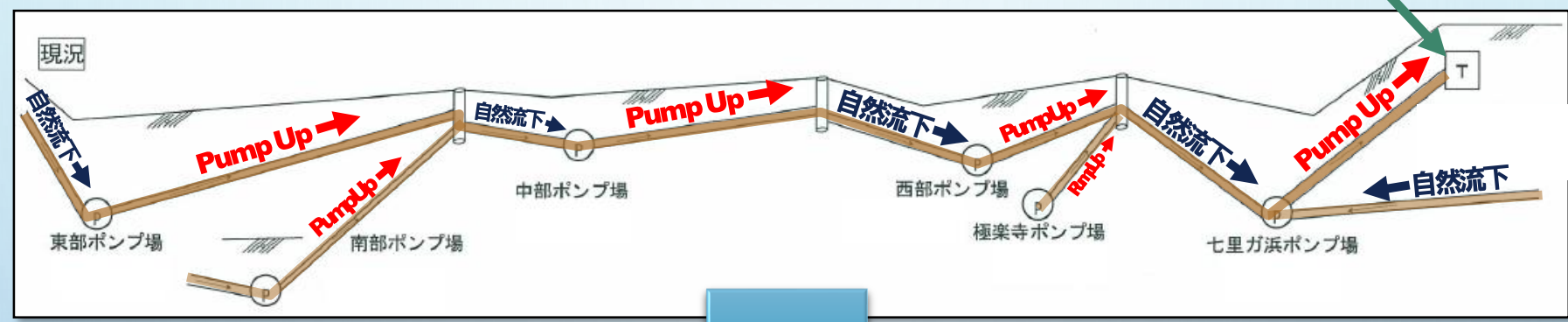
七里ガ浜下水道終末処理場

新七里ガ浜ポンプ場候補地
七里ガ浜東五丁目公園

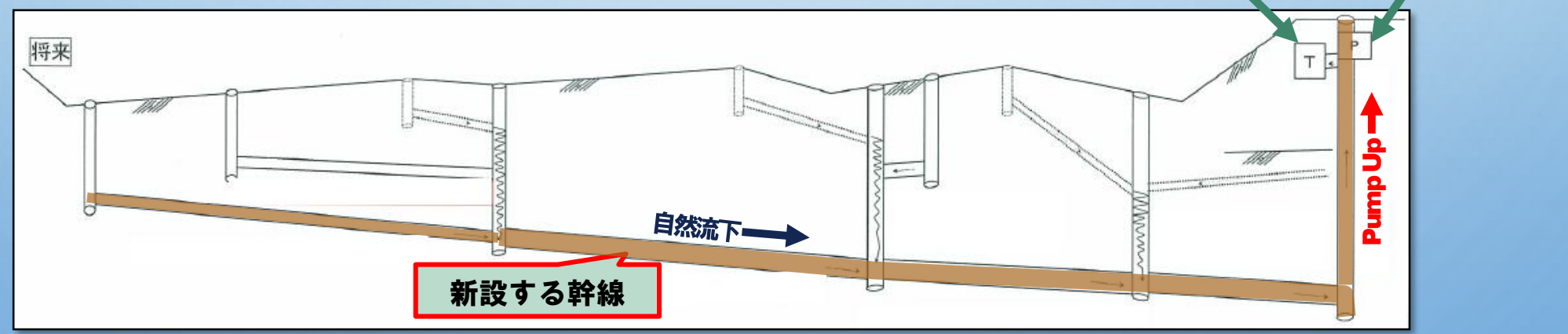
七里ガ浜小学校

縦断面図

現在の送水方法

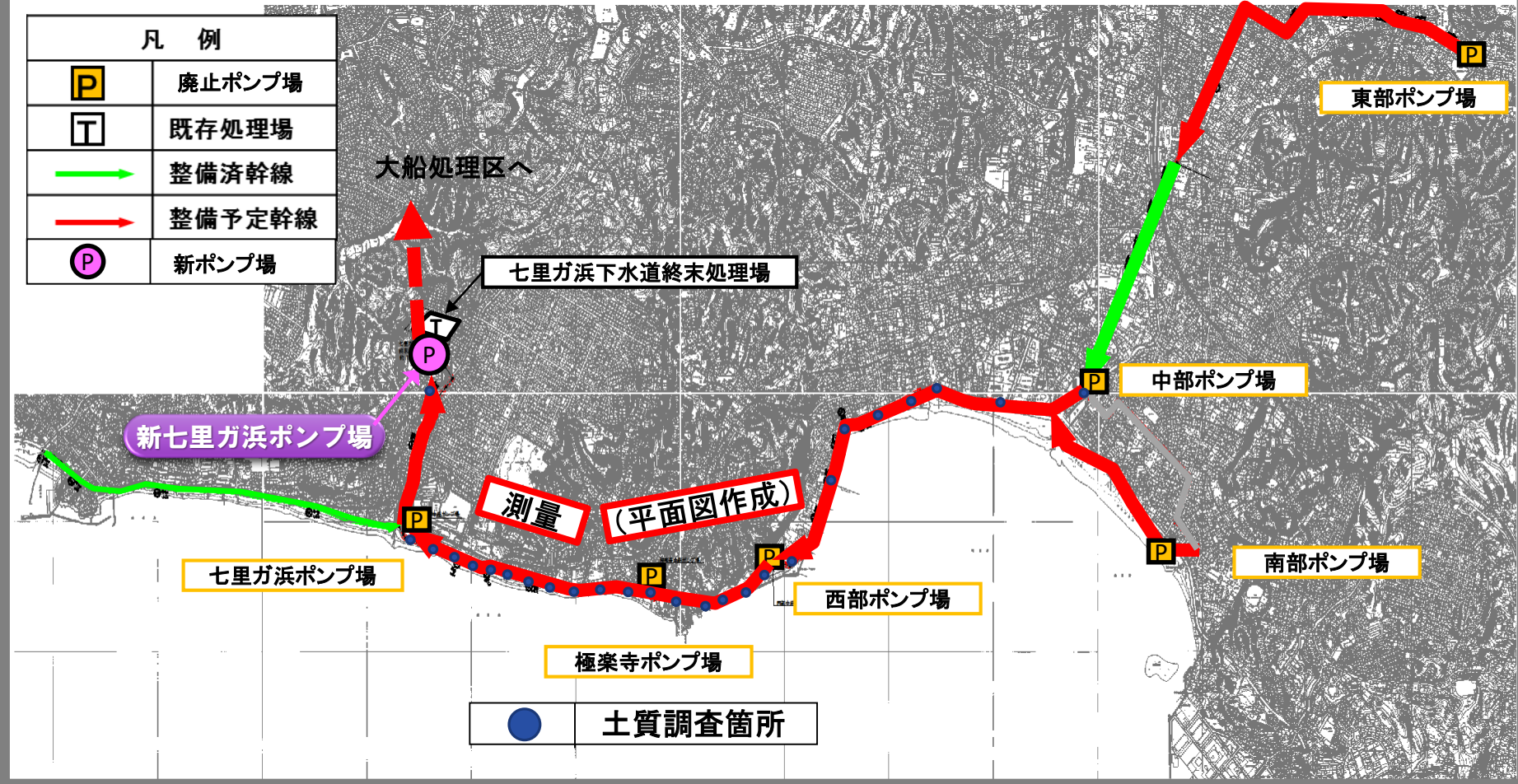


持続型下水道幹線の整備



事業実施箇所

凡 例	
P	廃止ポンプ場
T	既存処理場
	整備済幹線
	整備予定幹線
P	新ポンプ場



H29年度

新ポンプ場候補地の土地使用者と協議調整

H30年度

交付金

- ・測量・土質調査
- ・処理場敷地内における新ポンプ場検討

R元年度

- ・処理場周辺の新ポンプ場候補地(公有地)管理者と事前協議

R2~3年度

- ・新ポンプ場候補地比較検討
- ・処理区統合検討 (R2~3年度)

4. 事業実施経過(管渠)

実施年度	実施内容	補助対象 事業費(実績)	計画内容	補助対象事 業費(計画)
平成29年度	新ポンプ場候補地の土地使用者と協議調整の結果不調	0百万円	測量・土質調査	62.1百万円
平成30年度	測量・土質調査及び処理場敷地内における新ポンプ場検討(H29年度から繰越)	53.8百万円	測量・土質調査	62.1百万円
令和元年度	処理場周辺の新ポンプ場候補地管理者と事前協議	0百万円	管渠基本設計	25.3百万円
合計		53.8百万円		149.5百万円

5. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

計画の成果目標(定量的指標)

③ 再整備幹線管渠の62.7%の調査及び基本設計を行う。

成果目標

最終目標値	62.7%	調査・基本設計延長4,736m／再整備幹線総延長7,552m
最終実績値	22.5%	最終目標値62.7%×実施済事業費53.8百万円／全体事業費150百万円

・ 事業効果の発現状況

測量と土質調査により、幹線管渠の基本設計等に必要な地質等基礎データを収集することができた。

・ 今後の方針

地震・津波対策と老朽化対策を図るため、引続き再整備幹線等の整備に向け検討を行い、早期着手を目指す。

・ 目標値の達成状況 (目標値と実績に差が出た要因)

新ポンプ場の設置位置が決定できなかったため、幹線管渠の基本設計に着手できず目標を達成できなかった。

4. 事業実施経過(ポンプ場)

実施年度	実施内容	補助対象 事業費(実績)	計画内容	補助対象事 業費(計画)
平成29年度	新ポンプ場候補地の土地使用者と協議調整の結果不調			
平成30年度	測量・土質調査及び処理場敷地内における新ポンプ場検討 (H29年度から繰越)			
令和元年度	処理場周辺の新ポンプ場候補地管理者と事前協議	0百万円	ポンプ場基本設計	25.3百万円
令和2年度	新ポンプ場候補地比較検討・処理区統合検討(R2~3年度)	0百万円	ポンプ場基本設計	25.3百万円
合計		0百万円		50.6百万円

5. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

計画の成果目標(定量的指標)

④ 再整備幹線ポンプ場の基本設計を行う。

成果目標

最終目標値	100%
最終実績値	0%

- 定量的指標に関連する交付対象事業の発現状況

新ポンプ場の位置が決まらず基本設計の実施に至らなかった。

- 今後の方針

地震・津波対策と老朽化対策を図るため、引続き再整備幹線等の整備に向け検討を行い、早期着手を目指す。

- 目標値の達成状況(目標値と実績に差が出た要因)

新ポンプ場の位置が決定できなかったため、基本設計に着手できず目標を達成できなかった。